



あけましておめでとうございます

会長 植田佐世子

歳明けの挨拶もそこそこに、地震・事故・火災とまるで人間性を試されるようなことが起こりました。年を重ねるごとに気が短くなり、体の動きも悪くなり、人と会えば不健康自慢をする自分がいます。

そこで、私は一つだけですが前進することを自身に課すことにしました。(何かは恥ずかしいので言えませんが…) そして、皆さんとともにあるプロバスケットクラブを創って行きたいと思っています。勿論主役は皆さんたちです。

新年の抱負

例会委員会

委員長 松本 忠

皆さん、お正月はいかがお過ごしでしたか。テレビを見たり、息子や娘、それに孫たちの会話等を聞いていると、時代が大きく変わったなあと、今さらながら感じたのは私だけでしょうか。

北九州プロバスケットは今年、私たちの活動がじり貧になっていくか、それとも再び元気を取り戻すか、分かれ道に差し掛かっていると思います。ではどうすれば。私は会員全員が一つになって大いに楽しむことが一番大切だと思います。自由に発想し、提案し、外にも目を向けて楽しめば、自ずと元気になり、会員も増えてくるのではないのでしょうか。

今年も例会委員会は、皆さんのお知恵を拝借しながら、いろいろ企画して頑張りたいと思います。一緒になって大いに楽しもうではありませんか。

交流委員会

委員長 吉田 秀子

会員の皆様には初春をお元気に迎えられることと思います。今年に入ってからテレビ報道には、心を痛めている方も多いと存じます。亡くなられた方々には心からお悔やみ申し上げます。いつでも、どこにいても起こり得る災害に、今を元気に楽しく生きることの出来る大切さを痛感いたします。縁あってプロバスケットに集う皆様が、お互いに寄り添い支えあって、目標でもあります「楽しいプロバスケット」への歩みを、進めていきたいと願ってやみません。

交流委員会として、前年度の事業へのご協力に感謝するとともに、今後さらなる結束をお願いして、令和6年の計画を推進していきたいと思っております。

広報委員会

委員長 内藤 康子

今年は辰(龍)年、変化がおきる年ともいわれていますが、会員の皆様のご協力を得ながら、今年も月報「つながり」、会報「Link」を発行し続けることを第一にと考えております。

また、11月には創立25周年を迎えることにより、その記念誌の刊行もと考えていますが、会員20名となった今、どのような形のものかふさわしいのかと考慮中でもあります。意欲と熱意のある会員が揃えば、数は問題ではないと思ってもやはり一抹の不安は過ります。単なる記録として発行するのではなく、皆さんの総意の籠った、読んで楽しく面白いものに…大きな宿題ですが、意見やアイデアをいただきながら、取り組んで参ります。

そして、外部に向けても、ホームページに替わる媒体を模索していかなければなりません。課題の多い年になりそうですが、意欲を持って進んでいきます。

12月例会報告

会員の動向で藤兼伊久子さんが退会されたことが報告された。このところ毎月、退会者があるのは寂しい限りだ。卓話は北九州市漫画ミュージアムの田中時彦館長が「実は北九州市は漫画王国なんです」との題目で講演、同館の活動ぶりを紹介した後、「平日は60歳以上の方も多く見えています、昔の作品も多く、ぜひ、漫画の面白さを知って欲しい」と来館を呼びかけた。

食事の後は議事に入り、先月古賀会員から「事務局長不在なら、私になってもよい」と提案されたことを受け、三役会での協議結果を報告、役員人事で立候補制はとっていないことなどから、三役会で継続審議することが報告された。また、ホームページについても最近、閲覧者が少ないことなどから、費用対効果が認めづらいと、今年度限りで中止することにした。

ショートスピーチは洞会員の番で原稿を持参、松本幹事長が代読し、最後に洞会員が高齢を理由に退会を表明「お世話になりました」とお礼を述べた(安高)

12月例会卓話 「実は北九州市は漫画王国なんです」

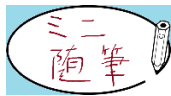
北九州市漫画ミュージアム館長 田中 時彦氏



田中館長は「畑たいむ」というペンネームを持つ、ご自身が漫画家で、最初に「一般の方を対象に漫画の話をするのは少ないので、こうした機会をいただいております」と挨拶。そして、鉄腕アトムの原画を紹介して、「この原画がフランスのオークションで 3500 万円で落札されました。日本の漫画は海外での評価が高く、富裕層がコレクションにしている傾向があります。浮世絵が海外で収集されている現状の反省を込め、我々としても海外流出を防ぐため、日本でしっかり原画を管理運営していかなければと思っています」という。

ここで、なぜ漫画王国なのかの説明に入り、北九州市出身の漫画家を紹介。各地に漫画天国と言われるところは数多くありますが、一都市で 100 人近い漫画家を生み出しているのは北九州市だけ。続いて、八幡に製鉄所ができたことで、全国から何十万という人が集まり、いろいろな産業が生まれ、大手の新聞社も次々と北九州に拠点を作りました。そして、新聞社が 4 コマ漫画を掲載し、漫画家を育てました。各企業でも広報誌をつくり、そこに漫画を掲載するといった具合に結構、市内では漫画を描ける人が便利屋として存在し、同人誌を作っていました。そこで、末吉市長時代にこれだけ漫画の文化が育っているのに、これを活用しない手はないということで、2012 年 8 月に漫画ミュージアムが誕生しました。日本には漫画ミュージアムと呼ばれるものが約 100 施設ありますが、そのほとんどが個人作家の記念館で、最初、北九州でも松本零士記念館にしようという話がありましたが、松本先生が「北九州には大勢の漫画家がいるので、それではまずい」と反対され、結果的にそれが功を奏し、総合漫画施設になっていろいろな作家さんの作品が展示できるようになりましたと経緯を説明しました。

今の課題は何とか収蔵庫を拡充したいということ。「なりよりも松本零士先生の原画は他所の施設ではなく、ぜひ北九州で保存したいと思う。ご自宅にある原画の収蔵についてもご家族の同意は得ているのですが、収蔵庫は満杯、この問題をなんとかしたい」と力を込めて訴えた。この他、世界漫画サミットの誘致や海外との交流、漫画関係施設のマップづくりなどミュージアムの活動を紹介、話は多岐にわたり、初めて知ったことが多かった。ただ、個人的には漫画も立派な文化、こうした立派な財産があるのにまだ、十分に生かし切れていないというのが実感でした。(安高)



囲碁三昧

No.82 神田澄男会員

私と囲碁との出会いは大学時代です。下宿に囲碁部の友人がいたので、何となく囲碁がわかるようになり、卒業後は第2人に教えました。

その後就職し、仕事仲間6、7人と週1回の会を持つように。会社退職後は小倉北区金田のマンションに転居しました。近くに厚生年金会館があり、その学園囲碁講座に入会、入会時は3級でした。が、続けて習っているうちに上達していきました。同時に先生の日本棋院小倉支部にも出入りするようになり、いろんな大会にも参加。そして5段まで昇格しました。

その他、友人宅(大橋会)で週1回の会があり、その流れで戸畑の大谷市民センターで「金曜囲碁クラブ」を20年間お世話しています。

プロバスクラブにも囲碁の会があり、幹事だった吉森博之君(故人)や吉田信雄さんとはお互いの自宅を行き来し、楽しんだものでした。昨今は友人が自宅に来てくれています。ネット囲碁もあり、退屈しない日々を送っています。

負けても 勝っても おもしろい！ 囲碁に出会えてとてもよかったです。

小倉駅前の清掃活動に参加

12月13日、小倉北区クリーンキャンペーンに参加しました。セントシティ前に集合し、プロバスクラブからは5名の参加となりました。総勢300名の参加者があり肝付実行委員長や園田小倉北区長の挨拶の後、それぞれ火ばさみ、軍手、ボランティア袋をもらい、駅前から米町公園周辺をたばこの吸い殻、雑草、落ち葉などを拾い集めながら、1時間弱の清掃活動をしました。



天気にも恵まれ街の美化に協力出来て良かったと思いました。(柴村)

4年ぶりのどんど焼 (小倉北区三郎丸校区)



1月7日、小倉北区三郎丸地区の”どんど焼”大会が、三郎丸小学校で開催というので行って来ました。この地区は柴村会員が食生活改善推進員として活動されています。4年ぶりの開催で、前日からぜんざい作りの準備で大変！大きな羽釜が3個、校庭に並んでいました。

午前11時から体育館で、妙見神社宮司さんによる神事が行われ、終わると校庭の一角に山積みされた正月飾りに火がつけられ、一瞬のうちに勢いよく燃え上がりました。強い風に煽られ煙が迫り、竹の弾ける勇ましい音に歓声があがります。焰に今年1年の無病息災を祈り、終わりに美味しいぜんざいを頂き帰途に、ごちそうさまでした。(内藤)





北九州プロバスクラブに「入会」させて頂いて、16年半になります。本当にお世話になりました。昨年10月で満86歳の米寿を迎え皆様に温かく祝って頂き、心から感謝いたします。

北九州プロバスクラブの「入会」は、幼馴染の海原さんに誘って頂きました。会員の皆様に初めてお目にかかるため、恐る恐る「入会」したのを懐かしく思い出します。ところがなんと恐るるに足らず、皆さんが大変喜んで気持ちよく迎えてくださり、本当に心強く感じました。



私を熱心に誘ってくれた海原さんは、学生時代からの親友で今日まで私のプロバス人生をかたち作ってくれた恩人です。亡くなってもう3年、早いものです。例会や卓話、楽しい会話、美味しい食事、清掃活動、植樹会等、有意義な時間を過ごさせて頂きました。写友会では私の携帯写真をとても褒めて頂き、嬉しくなって常にシャッターチャンスを探していました。若戸大橋下での「あじさい祭り」などを好んで出向いて行き、どれも有意義で、楽しいことばかりが思い出されます。ひとえに皆様方のご尽力のお蔭と感謝しています。…と、洞会員の退会の言葉を松本忠会員が代読されました。私・眞鍋はゴルフの同好会で、何度かコンペを一緒に楽しんだことがあります。顔に似合わずガッツがあるのに驚いたことをよく憶えています。(眞鍋)

私・眞鍋はゴルフの同好会で、何度かコンペを一緒に楽しんだことがあります。顔に似合わずガッツがあるのに驚いたことをよく憶えています。(眞鍋)

幕開けはトリプルショック！

令和6年の新年は、トリプル・ショックで幕を開けた。

元旦に「令和6年能登半島地震」が発生、最大震度7により津波、家屋倒壊、道路の寸断、山崖崩れ等で死者が100人以上に達し、多数の安否不明者も。2日は羽田空港滑走路で日本航空と海上保安庁の飛行機が衝突炎上。日航機の乗員・乗客379人は奇跡の脱出を図り無事だったが、能登半島へ救援物資を運ぼうとした海保機の乗員6人のうち5人が死去した。続く3日は、小倉駅近くで魚町銀天街に隣接する鳥町食道街など35店舗が焼失した。けが人はなかったが、且過市場に次ぐ市中心部の大火だった。



昨年から、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスとの戦火が続き、自民党複数派閥に検察の捜査が進められており、今年も激動の年？それとも？(松本)

ありがとう BOX メッセージ 12 月分 (入会順、敬称略)

- ★食事が楽しみです。(遠藤) ★終わらない夏？紅葉も半端。(大川) ★(吉田秀) ★(松本)
- ★(眞鍋) ★(神田) ★色々勉強も出来たし楽しい会をありがとうございました。(洞) ★会報 Link24 号が発行できました。感謝です。(内藤) ★令和6年は世界がよい年でありますように(吉田信雄) ★寒くなりすぎ(安高) ★インフルエンザにご注意(橋本) ★1年間無事に過ごせました。感謝(柴村) ★この1年に感謝！(藤原) ★今年1年無事に過ごせたことに感謝！(大石)
- ★今日の卓話はおもしろかったです。来年もよろしく(山下静江) ★政界ではなく正々堂々と公明なクラブでありたいです。(無記名)

収支報告	11月末残高	115,177 円
	12月分	8,500 円
	12月末残高	123,677 円